

白根市近郷ビルマ会による第二次大戦のビルマ戦線の戦没者の慰霊祭が十一月一日、浅乃澄で行われ、会員二十人が参加。亡き戦友たちをしのび、平和を祈りました。

同会はビルマ戦線へ参戦した白根市在住の四十人で構成。「二度と戦争を起こさないよう、平和を祈る」ことを目的としています。

この日は戦没者百十二人を慰霊。その後、石本法英さん(小須戸町)製作の戦争記録ビデオを鑑賞しました。安達取作会長は「すぐ隣の戦友が死んでしまう。戦争は本当に生と死の境なんです」と、銃撃戦などの映像を見ながら戦争の悲惨さを振り返っていました。

白根市近郷ビルマ会 慰霊祭
戦友をしのび、平和を祈る



市消防団 新飯田分団
毎日が火災予防週間

十月二十六日から始まった秋の火災予防週間に合わせ、市消防団新飯田分団では地区全戸を訪問。「火の元には十分注意をしてください」とパンフレットを手渡し、火災予防を呼び掛けました。

新飯田地区ではここ数年、大きな火災こそないものの、団員が「無火災分団の表彰を受けた記憶がない」と言う所。少しでも家庭の防火意識を高めてもらおうと、全世帯を訪問することにしました。

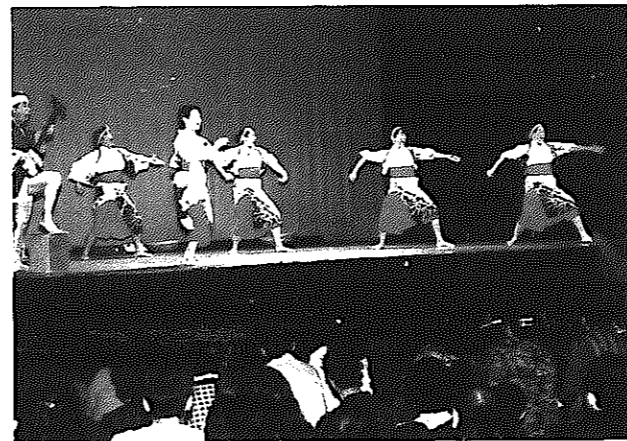
「この取り組みは来年も継続したいですし、他の分団に広がってくれば、もつとうれいすね」と山田分団長。「毎日が火災予防週間ですよ」と話していました。

日本古来の歌や踊りを通して生きる喜びを伝えようと、全国各地を回るわらび座。白根公演「いのちの歌」が十一月十三日、カルチャーセンターで開催され、約九百人の観客が詰め掛けました。

この日の公演は、日本各地に伝わる十五の歌や踊り、太鼓で構成。イワシ漁を歌う千葉の銚子ばやし、熊本の高い節、勇壮な三宅島の太鼓などを次々と披露しました。

楽器、掛け声によるリズムカルな歌や踊りに、会場からは盛んな拍手が沸き起こります。不況、不作を吹き飛ばせと言わんばかりの力強い舞台に、観客はすっかり魅了されていました。

わらび座白根公演
「いのちの歌」
歌と踊りで生きる喜びを



白根小学校 学校美術館
世界の名画に親しむ

白根小学校の校舎内に美術館が完成。文化祭で児童や父母に披露されました。これは「児童たちにより本物に近い美術に親しんでもらおう」と、創立百二十周年記念事業の一つとして空教室を利用して整備したものです。総額二百萬円の模写二十四点が飾られています。

飾られた模写は、ピカソの「ゲルニカ」やレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」など有名なものばかり。カーテンで太陽光線を遮断し、絵画一点をスポットライトで照らすなど館内も本格的に改装され、美術鑑賞には最適。世界的名画を目の前にして、子供たちからは歓声が上がっていました。

庄瀬小学校のグラウンドに直径五メートル、高さ四メートルの縄文時代の竪穴式住居が登場。訪れる人たちをびっくりさせています。

これは同小学校の郷土史クラブの児童二十人が、文化祭の出展作品として、クラブの時間や放課後、休日など四十日余りをかけて造ったもの。父母から分けてもらったワラや竹などで、縄文時代の住居をそのまま復元しました。

クラブ長の斎藤亮君は「穴を掘るだけで十日もかかった」と苦労を語ります。「火事や降雪など管理上の問題から近々取り壊されるけれど、跡だけでも残しておきたい」と名残惜しそうです。

庄瀬小学校 郷土史クラブ
縄文時代の住居を復元



ウーマントーク in 白根
次は男性も参加して

男女の性にとられず、自身自身を見直そうと、第二次女性フェスティバル「ウーマントーク in 白根」が十一月七日、カルチャーセンターで開催されました。

労働の分野で女性問題に取り組んできた朝日由香さんは、講演で「役割にとられられない主体性を育て、自分らしさを発見してほしい」と訴えました。また竹内市長、松浦サキさん、渡辺弘子さんらによるパネルディスカッションでは、会場との活発な意見交換も。

少ないながら男性の参加もありましたが、「こういう機会には男性も大いに参加して、意識を変えてほしい」という声も聞かれました。

十一月二日、青年教育センターで高齢者交通安全の集いが開かれ、市老人クラブ連合会から百人余りの市民が参加しました。これは年々増加する高齢者の事故を防止しようと、警察署、安全協会、市が主催して開かれたもの。交通安全に関する講話や人形を使った事故の路上実験などが行われました。

特別講演では、笹神村光円寺の渡辺住職が人形劇を披露。平和な家庭を築いた交通事故を題材に人命の尊さを訴えました。参加者はユニークな話しっぷりに笑いを誘われながらも、目前で展開される悲惨な事故を見ながら、交通安全の大切さを胸に刻んだようでした。

高齢者交通安全のつどい
交通安全の大切さを胸に



青年の祭典 耐久レース
三輪車の視点で新発見

十一月七日、青年の祭典が行われ、ゲームやスキー映画などの催しで秋の一日を楽しみました。

耐久力を競う三輪車三時間耐久レースでは七チームが参加。時間内に子供用の三輪車で、コースを何周できるかを競いました。しかし、屈強な青年の体重を支え切れずに故障するマシンが続出。「勝敗は、マシンを決めるくじを引いた時点で決定した」とぼやく参加者も。平らなコースのはずが、三輪車の視点では急な坂道になるという新発見もありました。優勝チームは賞品の旅行券を手に入、嬉しいレースの疲れを温泉でいやそうと大喜びでした。